

〈授業像に込められた願い……〉

【1回目】

2年2組では、「授業は誰のためのものか？」という問いから授業像についての話し合いを始めた。まず、「自分のため」「みんなのため」といった意見が出て、ある子からは「未来のため」という意見が出た。「未来に自分たちのやくにたつことをするのが授業だから」ということだった。

では、「自分たち（みんな）のための授業は、どんな授業にしていきたいか」と聞いたところ、ほとんどの子が ・いい ・楽しい ・なかよし ・おもしろい 授業と答えた。

そこで、子どもたちから出た意見を具体的に聞いていった。

- ・おもしろい ・元気にあいさつ ・ルールをまもる ・まちがえたときもがんばる
- ・がんばる気もちで ・みんないっしょに ・みんなにわかりやすい ・あいてのはなしをよく聴く
- ・やさしく（こまっている人・1年生） ・自分でおもったことを書いたり、つたえたりできる
- ・はっぴょうしたときにみんなにわかる ・ゆうきをもってはっぴょう
- ・仲良くできない授業は違う意見が出たときにけんかになってしまう授業。そうならないように、自分もいいね！ともだちもいいね！という気持ちを持つ。違うときは優しく教えてあげる。

【2回目】

前回出た意見をまとめて子供たちに配付し、とくに大切にしたいことを考えさせた。2年2組の子どもたちは、思いはあるがそれを表現することを躊躇してしまうという実態がある。また、子どもたちの中にも、勇気を出して発表できる子が少ないという課題意識を持っている子が多い。そこで、授業で「やってみよう」（発表してみよう）となるためにはどうすればよいか話し合った結果、以下の3つにまとめ、**「ゆ・き・は」**の合言葉にするという意見が出た。

- ・勇気を持って発表すること
- ・思ったことや考えたことを皆に分かりやすいように発表したり話したりすること
- ・友達の話をよく聴くこと（耳と目と心できくこと）

【3回目】

「ゆ・き・は」の授業像を全員が目指せるものにしてほしいという思いから、「ゆ・き・は」ができていない授業はどういう授業なのか、班で話し合い、書き出した。

【具現化のために】

「ゆきは」を合い言葉に、よい聴き方ができている場面、よい話し方ができている場面を見取り、価値付けしていく。また、具体的な聴き方・話し方を短冊に掲示し、全体で意識できるようにしていく。